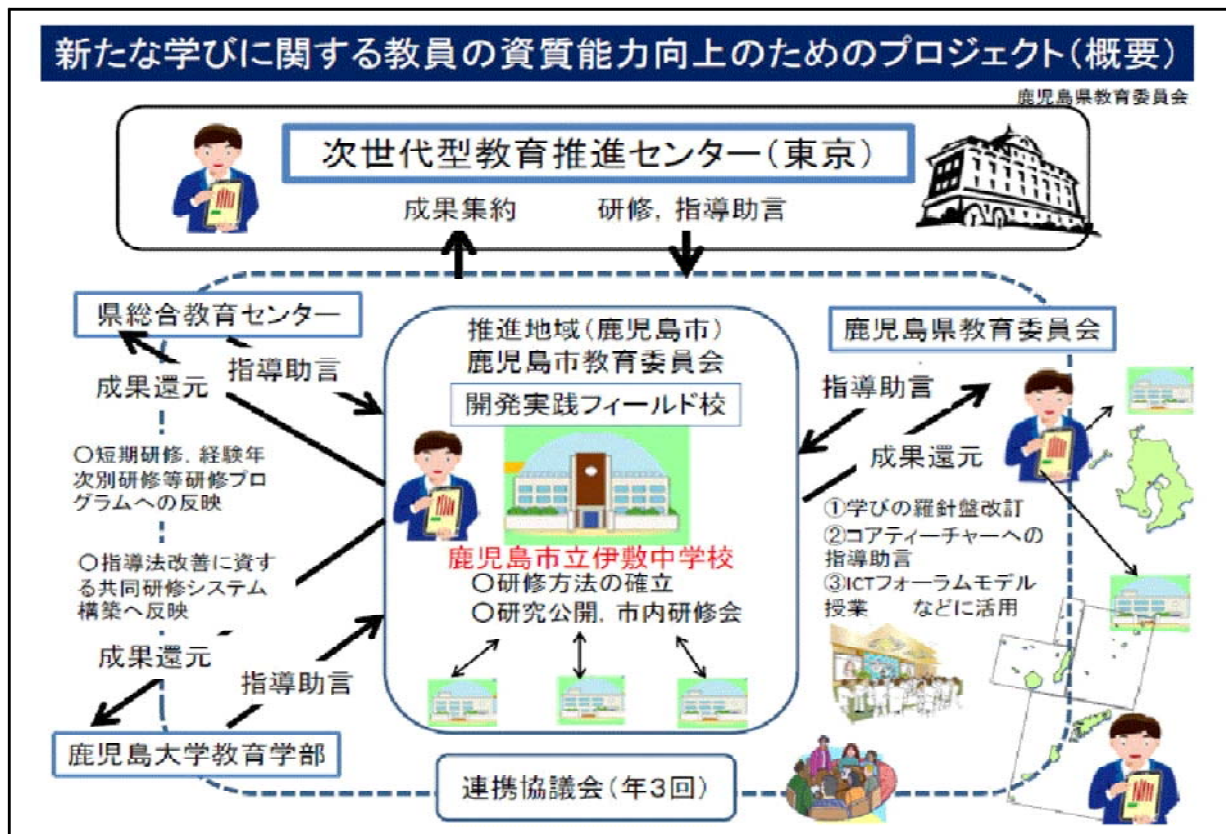


(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト 平成27～29年度 成果報告書

(概要)

次世代型教育推進センター派遣の研修協力員による調査研究を生かしながら、開発実践フィールド校における実践・研究を重ね、その成果を推進地域及び県下へ広く還元するとともに、連携する機関等における研修等に反映させることで、本県における教員の授業力向上や主体的・対話的で深い学びによる授業改善の充実を目指し、教員の指導力向上のための研修プログラムを構築する。



(推進地域)

鹿児島市

(実践フィールド校)

鹿児島市立伊敷中学校

平成30年3月
鹿児島県教育委員会

1 取組の背景

本県はこれまで、教員の授業力向上や主体的・対話的で深い学びを推進するための各種施策を展開してきたところである。しかしながら、全国学力・学習状況調査結果から、本県では「活用に関する問題」（B問題）について、全国平均を下回る傾向にあり、思考力・判断力・表現力等に課題があることが分かっている。このことは、問題解決を通して、子供の意見や考え方を生かした魅力ある授業を創るための資質を高めることが、教員一人一人に求められていることに他ならない。

新学習指導要領においては、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、創意工夫ある教育活動を展開することが求められている。今後、学力向上・授業力向上策においては、教員一人一人の授業改善はもとより、効率的・効果的な校内研修を行い、組織として、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す指導方法を見直し、改善につなげる取組を活性化していくことが重要となる。

本プロジェクトは、次世代型教育推進センター派遣の研修協力員による調査研究を生かしながら開発実践フィールド校における実践・研究を重ね、その成果を推進地域及び県下へ広く還元するとともに、連携する機関等における研修等に反映させることで、本県における教員の授業力向上や主体的・対話的で深い学びによる授業改善の充実を図り、教員の指導力向上のための研修プログラムを構築するものである。

2 事業の内容（進め方、方法）

(1) 実践フィールド校（鹿児島市立伊敷中学校）

伊敷中学校では、21世紀型能力を構成する「実践力」を育むため、各教科で設定した「目指す実践力」の育成に向けて研究・実践を行った（平成27・28年度）。平成29年度からは、研究主題「新しい時代を切り拓く資質・能力を身に付けた生徒の育成」のもと、「深い学び」における生徒の姿の具体化及び対話環境の設定、振り返る活動の充実等を視点とし、研究・実践に取り組んでいる。

また、職員（研修協力員経験者）が県内外の多くの研修会に講師として参加し、研究成果を還元している。研究公開はもとより、年間を通じて研修視察を受け入れ、領域や教科等に関わる講義や研究授業を通じた研修を実施している。

(2) 鹿児島市教育委員会

ア 実践フィールド校への指導助言

研究主題に基づく各教科の研究・実践について、計画的に指導助言を行う。

イ 各研修会等への担当指導主事からの指導助言

本市主催の教科別研修会、市教務主任等研修会及び、管下学校の校内研修において、指導主事が主体的・対話的で深い学びに関する取組について指導助言を行う。

(3) 県教育委員会義務教育課

ア 連携協議会の開催（年3回）

主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業の参観を通じた研究協議等を行い、教員の指導力向上のための研修プログラムの構築等に向けて共通理解を図る。

イ 次世代型教育推進セミナーの開催（平成28・29年度開催）

主体的・対話的で深い学びに関する教員の資質能力向上のために、県教育委員会及び次世代型教育推進センターの取組の成果を公表し、全体で協議することにより、域内全体の指導方法等の改善に資する。

	平成28年度	平成29年度
開催日	平成28年11月25日（金）	平成29年8月9日（水）
会場	ウェルビューかごしま	かごしま県民交流センター
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「学習指導要領改訂の動向」（文部科学省初等中等教育局教育課程課課長補佐 金城太一氏） ・発表「小・中・高等学校の実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」（次世代型教育推進センター研修協力員） ・実践発表「実践フィールド校の取組」（鹿児島市立伊敷中学校 戸川浩介教諭） ・演習「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の推進」（次世代型教育推進センター研修協力員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、カリキュラムマネジメントにどう取り組むか」（大谷大学教授 荒瀬克己氏） ・発表「全国の取組から」（次世代型教育推進センター研修協力員） ・演習「主体的・対話的で深い学びの三つの学びについて」（次世代型教育推進センター研修協力員）

ウ 未来を拓く鹿児島の教育シンポジウム（平成28・29年度開催）

教職員の資質の向上に関する派遣研修等を受講した教職員による研究成果の発表、地域・学校・関係機関等において学力向上や生徒指導等で特色ある取組を展開している実践の発表等を通して、一人一人の教職員が、ライフステージに応じた今の自分に必要な学びについて考える機会とするとともに、教職員の資質の向上に資するため、本県が毎年開催するシンポジウムである。平成28年度は、研修協力員経験者の基調発表を基にしたパネルディスカッションを、平成29年度は、研修協力員経験者による実践発表を行った。

	平成28年度	平成29年度
開催日	平成28年8月10日（金）	平成29年8月10日（木）
会場	かごしま県民交流センター	かごしま県民交流センター
	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「成熟社会に相応しい教育課程と学習指導要領改訂」（文部科学省初等中等教育局教育課程課長 合田哲雄氏） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会における実践発表「主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指して」～授業改善、校内研修の実際について

本事業に係る内容	<p>・パネルディスカッション「学校・授業をアクティブに」</p> <p>(パネリスト：鹿児島大学教育学部准教授 高谷哲也氏， 湊上印刷株式会社代表取締役社長 門田晶子氏， 県PTA連合会副会長 中野留美子氏， 伊敷中学校 戸川浩介教諭：平成27年度研修協力員)</p>	<p>(伊敷中学校 窪亮介教諭：平成28年度研修協力員)</p>
----------	---	----------------------------------

エ 先進地視察

他県開催の次世代型教育推進セミナーに，連携協議会委員等を派遣した。

(4) 県総合教育センター

ア 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善をテーマにした調査研究発表会の開催

国語科，社会科，算数・数学科，理科，外国語科の5分科会による事例発表や研究協議を実施した。

イ 短期研修講座における研究内容の活用

主体的・対話的で深い学びの視点による授業分析や授業づくりに関する研修を実施した（授業動画等を活用したワークショップ型研修）。

ウ 指導主事を対象とした土曜講座の実施

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善に関する研修会を実施した。

(5) 鹿児島大学教育学部における実践

ア 教育学部における実践

伊敷中学校は鹿児島大学教育学部の代用附属校として，学部の教育実習を実施するとともに，大学教員が年2回の実証授業や研究公開に指導助言者として関わるなど，各教科等の研究・実践に日常的に協力した。これらの状況を生かし，学部における教科教育の授業等において，伊敷中学校の研究や実践，授業の在り方等について紹介した。

イ 教職大学院における実践

教職大学院における開発実践実習Ⅰでは，伊敷中学校において年間60時間の実習を実施した。研究公開や夏季休業中に実施された校内研修会への参加，論文審議への参画，授業参観や聞き取り等を通して，組織が一体となり主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の在り方等について理解を深めるとともに，スクールリーダーや実践リーダーへの聞き取りなどを実施し，カリキュラム開発におけるリーダーシップの在り方等を中心として校内研修の進め方を研究した。

3 取組の成果

(1) 実践フィールド校（伊敷中学校）における実践

- 新学習指導要領が示す理念や資質・能力に関する校内研修を行ったあと、授業や日常生活に表出される生徒の姿を踏まえて、教科横断的な視点から、本校の生徒に育成することを目指す汎用的な能力を設定した。
- 研究主題「新しい時代を切り拓く資質・能力を身に付けた生徒の育成～『生徒の学び』に視点を当てた授業改善～」のもと、生徒の思考に寄り添った授業を展開することによって、「生徒の学び」を見取る教師の資質の向上が見られた。
- 各教科等において、汎用的な能力の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりに取り組んだ。県内各地でも、授業改善の動きが広がることを期待し、今後、その成果を授業実践事例集にまとめ、公表する。
- 研修協力員を活用した研修を毎年5回程度実施した。各教科部会では、各教科主任と研修協力員が直接連携を図ることで、各教科の取組と全国のフィールド校の取組を比較しながら研究を進めることができた。

また、地域外の教員や教職大学院生の視察を数多く受け入れ、校内研修の手法を広く発信することができた。



写真1 研修協力員コーディネートによる校内研修

(2) 鹿児島市教育委員会における実践

ア 実践フィールド校への指導助言

実践フィールド校の実践・研究に携わる中で、研究協力員からの先進的な情報を得ると同時に、その情報を共有しながらこれからの授業や指導の在り方等について明らかにすることができた。

イ 各研修会等への担当指導主事からの指導助言

各研修会等の中で、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について、各教科担当の指導主事から市内の教員に指導することができた。

(3) 県教育委員会義務教育課における実践

ア 連携協議会の開催（年3回）

- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業の参観を通じた研究協議等を行うことにより、教員の指導力向上のための研修プログラムの構築等に向けて共通理解を図ることができた。
- ・ 連携協議会において、実践フィールド校、推進地域である鹿児島市教育委員会、総合教育センター、鹿児島大学教育学部及び義務教育課から成る委員で、主体的・対話的で深い学びの実現について協議を重ねたことそのものが意義深いものであり、それぞれの所属における主体的・対話的で深い学びの

実現を目指した授業改善について、取り組むべき方向性が明らかとなる機会となった。

イ 次世代型教育推進セミナー（平成28・29年度開催）

(ア) 平成28年度（197人参加）

参加者が自校の現状や課題を把握し、主体的に研修に臨むために、動画（教職員支援機構）の事前視聴を参加者に求めた上で、セミナーを開催した。文科省の最新情報をはじめ、全国の実践フィールド校の取組発表や演習「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の推進」を通して、参加者が今後の授業改善に向けて明確な方向性をもつことができた。



写真2 講義「学習指導要領改訂の動向」

【意見・感想】

- ・ 児童生徒自身の手応えの実感，学びの深まりをどう捉えていくか，どのように評価していくかが今後の課題である。
- ・ アクティブ・ラーニングの視点があくまでも授業改善の視点であることを改めて感じた。子供の姿をしっかりと見ることが大切だ。
- ・ 演習を通して，主体的な学び，対話的な学び，深い学びは切っても切れない関係であり，三本柱を一体的に取り組まなければ真の授業改善が図られないことを感じた。

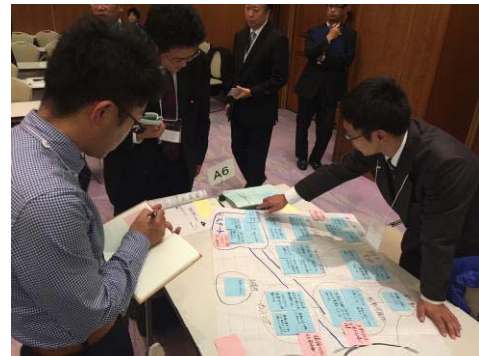


写真3 子供の学びを可視化

(イ) 平成29年度（252人参加）

講義，実践発表，演習というセミナーの内容は，現場のニーズに対応した内容であり，参加者にとって，主体的・対話的で深い学びについて理解を深める上で大変有意義なものとなるとともに，理論的な部分を演習を通して深く考える好機とすることができた。

【意見・感想】

- ・ 一单元の中で，目指すべき姿，身に付けさせたい姿をしっかりと定め，見通しをもった授業づくりをしたい。
- ・ 校内研修で本セミナーのような研修を企画したい。自らの意識改革と実践の原動力となった。
- ・ 校内研修で資料を紹介し，授業参観を基に演習（Yチャート）で行った方法等を用いて，より実践的な研修につなげていきたい。



写真4 演習で三つの学びに迫る

- ・ 教職員支援機構のHP，動画を是非活用したい。動画は大変分かりやすく参考になる。
- ・ (伊敷中の) 授業研究の在り方は校内の先生方にも知ってもらいたい。自校においても，子供の姿で語る授業研究にしたい。

ウ 未来を拓く鹿児島県の教育シンポジウム（平成28・29年度開催）

(ア) 平成28年度

パネルディスカッション「学校・授業をアクティブに」を実施し，平成27年度研修協力員の基調発表を基に，大学，民間企業，保護者がパネリストとして登壇し，多方面からアクティブ・ラーニングの視点による授業改善の在り方を討議した。

【意見・感想】

- ・ アクティブ・ラーニングについて，これまで聞いてきたことの内容をパネルディスカッションをとおして理解することができた。
- ・ これからの教育が大きく変化・進化していることを改めて聞き，「学びを能動的に行う」ということを自分なりに追求していきたい。
- ・ 自分は事務職員であるが，教員と同じように知識を得ると，学級経営や学力向上等にも，チーム学校として目標に向かっていけると思う。

(イ) 平成29年度

主体的・対話的で深い学びを実現する授業について，平成28年度研修協力員による実践発表を行った。授業改善の方向性を共有したのち，主体的な学び，対話的な学び，深い学びを実現している子供の姿をピクトで具体的に示し，それぞれの学びの視点に沿って実践事例や，伊敷中学校で取り組んでいる校内研修を紹介した。

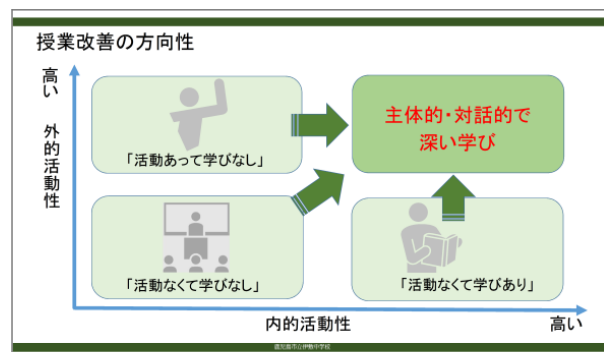


写真5 授業改善の方向性

【意見・感想】

- ・ アクティブ・ラーニングについて，分かりやすく伝えていただき，すぐに授業したいと思った。
- ・ 校種を越え，様々な先生と交流する中で，課題や改善策について情報交換ができた。
- ・ 学習指導要領の改訂により，教育の方法が変わろうとしていることがよく分かった。

エ 先進地視察

(ア) 平成28年度

次世代型教育推進セミナー（長野会場及び岐阜会場）に教諭，指導主事等7人を派遣し，連携協議会にてその成果報告を行った。

(イ) 平成29年度

次世代型教育推進セミナー（和歌山会場及び滋賀会場）に指導主事等6人

を派遣し、連携協議会にてその成果報告を行った。また、次世代型教育推進総括セミナー（福岡会場）に指導主事等4人を派遣した。

(4) 県総合教育センターにおける実践

- 授業改善に関する短期研修講座（国語，社会・地歴・公民科，算数・数学，理科，外国語科）において，主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を目指した基本的な研修プログラム（表1）を策定し，実施することができた。

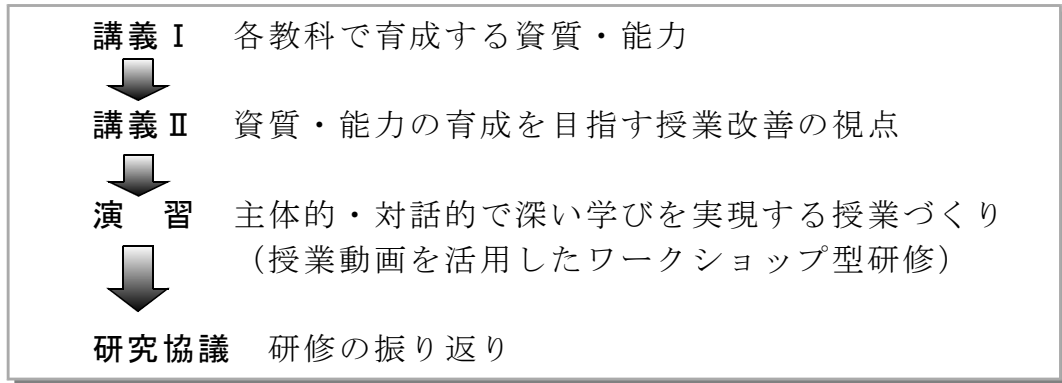


表1 主体的・対話的で深い学びに基づく研修プログラム

- 授業改善に関する講座については，受講者の評価も高く（満足度80.6%），受講者のニーズの高さがうかがえた。このことから，次年度は県下全地区での移動講座を計画している。

(5) 鹿児島大学教育学部における実践

- 教職大学院では，伊敷中学校での実習を通して，主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の在り方や子供の学びの姿（事実）に基づく授業研究の進め方，全職員の協働体制による校内研究の在り方等について，理論的かつ実践的に理解を深めることができた。次年度の勤務校における実践に大いに参考となる知見を得ることができ，その取組や成果を今年度の成果報告発表会や2年次の学修計画に取り入れるなど，院生にとって貴重な学びの機会となった。
- 実践フィールド校である伊敷中学校が鹿児島大学教育学部の代用附属校であるため，大学教員が年2回の実証授業や研究公開に関わるなど，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について，協働開発することができた。
また，研究公開において，指導助言者として関わり，参加者の授業改善に向けた理解を深めるなど，一定の成果を上げている。
- 学部においては，教科教育を担当する教員が伊敷中の研究公開に携わっているため，教科教育の授業等において，主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の在り方等について学修を深めることができた。

4 課題及び改善策

(1) 課題

- 伊敷中学校の取組成果を推進地域（鹿児島市）はもとより、県下へ波及させる必要がある。
- 各学校における校内研修の活性化を図る必要がある。
- 主体的・対話的で深い学びの視点で、組織（学校全体、教科部会、学年部会）が一体となった授業改善を進める必要がある。（学校組織の活性化）
- 今までの研究授業は指導方法に偏っていた傾向があるため、子供の学びの姿（事実）を見取る力を高め、それに基づく授業研究について研究を深める必要がある。
- 子供にどのような資質・能力を身に付けさせたいかという視点に基づいた授業づくりへの思考転換を図る必要がある。
- 一人一人の教員の授業観を見直し、変革していく必要がある。

(2) 改善策、還元策

これまでの3か年の取組の成果を各機関における実践に反映させるとともに、各機関が連携をさらに強化し、実践フィールド校の取組を推進しながら、教員の授業力向上や主体的・対話的で深い学びを推進するための各種施策を展開する。

ア 実践フィールド校（伊敷中学校）

- ・ 研究の柱「1 子供の学びに視点を当てた授業改善」、「2 学習評価の充実」、「3 カリキュラム・マネジメントの充実」に基づいた研究・実践
- ・ 研究公開はもとより、県内外における研修会において研究成果を還元するとともに、研修協力員経験者を講師として派遣
- ・ 研修視察の積極的な受け入れによる研究・実践の普及

イ 推進地域（鹿児島市教育委員会）

- ・ 教科別研修会提供授業における、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善及び伊敷中学校教諭による授業実践の紹介
- ・ 市指定研究協力校（平成31年度～）の研究領域に「主体的・対話的で深い学び」を位置付けての研究推進
- ・ 市教務主任等研修会における主体的・対話的で深い学びについて学ぶ演習等の実施
- ・ 校内研修における指導主事による各教科に応じた主体的・対話的で深い学びに関する指導助言
- ・ 伊敷中学校教諭派遣による、主体的・対話的で深い学びに関する取組の実践紹介（希望する小・中学校に対して）

ウ 県教育委員会義務教育課

- ・ 連携協議会の開催（年3回）による、教員の指導力向上のための研修プロ

グラム構築等についての連携

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現によるかごしま学力向上プログラムへの研修協力員の活用（授業改善や活用する力の育成についての指導，主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善や校内研修の在り方等についての研修支援）
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点等による授業改善を踏まえた「学びの羅針盤～学び続ける教師のための取組方針～」の全面改訂
- ・ 研修協力員の知見を生かした研修の場の設定
- ・ 次世代型教育推進セミナーの開催（8月）
- ・ 未来を拓く鹿児島県の教育シンポジウムでの報告（8月）
- ・ 先進地視察

エ 県総合教育センター

- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を内容にした短期研修講座の実施（県下全ての地区で国語科及び算数・数学科，外国語科の移動講座の実施）
- ・ 悉皆研修（初任校研修及び中堅教諭等資質向上研修）における主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善に関する研修の実施
- ・ 研究提携校（小学校4校，中学校2校，高等学校1校）による研究公開実施

オ 鹿児島大学教育学部

- ・ 教育学部で，大学教員が公開研究会を中心として協力し，実践研究を深めるとともに，その成果や課題等を含めて教科教育の授業を通して学部生に「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の在り方」等について啓発する。
- ・ 教職大学院においては，授業や実習を通して，伊敷中学校の実践や研究に学ぶとともに，伊敷中学校のカリキュラム開発等について考察する。